

トータルサポートセンターだより



発行：京都府立舞鶴支援学校 地域支援センター トータルサポートセンター（TSC）

〒624-0812 京都府舞鶴市字堀4の1 TEL 0773-78-3133 FAX 0773-78-3135

第1回 特別支援教育合同研修会

『ギフテッドの子どもたちの理解と支援について』

特別支援教育合同研修会は、毎年、舞鶴市教育委員会、舞鶴市健康・こども部こどもまんなか室乳幼児教育推進課、舞鶴支援学校の三者が共催し、就学前から、小中高等学校、関係機関の方など各機関で子どもたちの支援の中核となっておられる先生方を対象として、年2回実施しています。今年度のテーマは「インクルーシブな保育・教育を目指して」としています。

6月24日（月）に伊藤 駿氏（京都教育大学 教育創生リージョナルセンター機構 総合教育臨床センター 学びサポート室〔知的ギフテッド教育支援部門〕）を招いて御講義いただきました。ギフテッドという子どもの状態や、園・学校でできる支援について諸外国の教育の状況を交えながら大変分かりやすく御講義いただきました。80名程度の参加があり、たくさんの感想をいただきましたので、一部ですが紹介します。

感想

- 思っていたギフテッドの認識が誤っていて、正しく理解することができました。他校・園の先生と、同じような事例の対応について意見交換することができました。
- 「ゆるめる」という支援の仕方が参考になりました。子どもたちに寄り添い、適切な支援ができるように、学んだことを活かしていきたいと思います。
- 「その子を理解すること」、「その子の良さを認めること」、「納得のできるルール作りをする」ということはギフテッドの子でなくても、どの子でも言えることだなと思いつつ話を聞いていました。
- ギフテッドは今まで縁がないと感じていたが、講演を聞いて、今まで言われてきたような個に応じた指導が有効であり、選択する時間を確保することの大切さを改めて知ることができた。発達凸凹があることはその子にとってしんどいことであること、そして、その子の話を聞くことが大切だと感じたので、今後に活かしていきたい。
- ギフテッドについては、文科省のHPやテレビの特集で見た程度だったので、今回初めて詳しく知ることができた。子どもたちが抱えている苦しみやもっている才能について理解できる身近な存在の教師として、大切なことをたくさん学ぶことができました。

京都府北部特別支援「夏季研修講座」（北部3校共催）

今年度は「読み書きに困難さのある児童生徒に対する理解と支援～ICT 機器等を活用した支援とその工夫～」と題して、高松崇氏（NPO 法人支援機器普及促進協会理事長）に御講演いただきました。子どもの目線に立った発達障害の理解や、ICT 機器等の活用の工夫について、実演を交えながら教えていただき、あっという間の時間でした。ICT 機器等を効果的に活用することが、子どもにとって分かりやすく、そして意欲的な学びを推進していくことにつながるという視野をさらに広げることができました。

当日は就学前から高等学校までの幅広い校種の先生方が参加され、有意義に学ぶ機会となりました。多数の感想もお寄せいただきました。今後の研修会の参考にさせていただきます。



～相談後の様子を教えてください～

トータルサポートセンターによる相談後の子どもたちの様子はどうでしょうか。これまでその後の様子を電話にて聞き取りさせていただいていましたが、実施方法の検討を行い、今年度から、各園・校にメールでお知らせさせていただきます。おおよそ3か月後を目途に、具体的に組み込まれたこと、子どもの様子の変化など、エピソードを具体的に聞かせてください。また、継続的な支援も可能ですので、状況に応じて御相談ください。

現場のニーズに応じた、役に立つ相談になっていたかの検証もしていきたいと考えています。お手数をお掛けしますが今後のよりよい相談につなげるためにも率直な御意見をお聞かせください。



第2回 特別支援教育合同研修会のお知らせ

講師 久保山 茂樹 氏

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
インクルーシブ教育システム推進センター
上席総括研究員（兼）センター長

「共生社会の担い手を育む」を保育・教育の合言葉に
—インクルーシブな発想で保育や授業を見直しながら—

◎日時 11月8日（金） 13時45分 受付
14時00分 開会

◎場所 中公民館ホール（中総合会館内）

舞鶴市内の教育関係者や行政等の関係機関の職員を対象とした研修会です。
詳しくは、各所管よりお知らせします。10月28（月）申し込み締切り。